

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数5,864件(前月比 30.7、前年同月比 1.1)で、12月から一気に急激な増加がみられ、本格的なインフルエンザの流行期に突入しました。例年1月末から2月にピークを迎えることが多く、今後も増加傾向が予想されます。山鹿、菊池、宇城、天草からの報告が多いようです。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告数10,959件(前月比 1.9、前年同月比 1.1)と、前月からほぼ2倍へ大幅に増加しており、原因はインフルエンザ(前月比 30.7)の増加によるものです。その他にはA群溶レン菌咽頭炎(前月比 1.3)、手足口病(前月比 1.4)、突発性発疹(前月比 1.2)、流行性耳下腺炎(前月比 1.3)が前月より増加しています。一方、それまで最大件数の感染性胃腸炎(前月比 0.8)他、RSウイルス感染症(前月比 0.8)、ヘルパンギーナ(前月比 0.3)の減少がみられました。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告件数167件(前月比 0.8、前年同月比 0.9)で、昨年9月をピークに減少傾向を認め、1月はさらに減少しました。菊池地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱: 報告数162件(前月比 1.1、前年同月比 2.8)で、昨年8月と11月に増加のピークがみられ増減の幅が大きい形で推移しています。1月は微増しています。菊池地区からの報告が多いようです。
3. A群溶レン菌咽頭炎: 報告数369件(前月比 1.3、前年同月比 1.2)で、昨年8、9、10月に最も少ない件数でしたが、11月から増加し12月微増、1月はさらに増加しました。冬季～春季に多い例年並みの推移を示しています。菊池、水俣地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎: 報告数3,184件(前月比 0.8、前年同月比 1.0)で、前年11月をピークに12月、1月と減少しています。今後はノロウイルスに代わりロタウイルス感染症の増加が予想されます。山鹿、菊池地区からの報告が多いようです。
5. 水痘: 報告数494件(前月比 1.2、前年同月比 1.6)で、昨年11月から増加に転じ12月、1月とさらに増加しています。昨年同月よりも多く、これから春先に向け流行の時期であり注意を要します。八代、宇城、有明、菊池地区からの報告が多いようです。
6. 手足口病: 報告数212件(前月比 1.4、前年同月比 30.3)で、昨年は夏季の流行がみられず年間を通じて少数で推移しています。件数は少ないものの11月から増加傾向を認め、12月、1月と漸増しており、冬季に多いのは異例の状況です。有明地区からの報告が突出しています。
7. 伝染性紅斑: 報告数6件(前月比 6.0、前年同月比 0.3)で、昨年は年間を通じて少数で推移しており、現在もその傾向が持続しているようです。
8. 突発性発疹: 報告数181件(前月比 1.2、前年同月比 1.2)で、月別の増減はあるものの年間を通じてほぼ一定の件数で推移しており、その傾向は大きくは変わらないものと思われます。

9. 百日咳： 報告数0件(前月比ー、前年同月比ー)で、1月は報告ありませんでした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数7件(前月比 0. 3、前年同月比 0. 5)で、夏季(7月)に流行のピークをむかえ冬季に少ないという例年並みの推移を示しており、1月は7件と最低の件数でした。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数75件(前月比 1. 3、前年同月比 0. 3)で、昨年は春から漸減状態で推移し12月が最低でしたが、1月は微増しています。しかし例年と比べると少数にとどまっています。天草地区からの報告が目立ちます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 77件(前月比 1. 2、前年同月比 2. 0)と増加しています。地域別では熊本 70件、菊池 4件、有明 1件、天草 2件の報告です。年齢別では 30～39歳をピークに 15～59歳に多発しています。幼児期の発症はわずかです。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。今回より定点医療機関数が増加したことより、各疾患とも増加しています。

1. 性器クラミジア感染症：報告数 61件(前月比 2. 3、前年同月比 2. 0)でした。前月比、前年同月比とも大幅に増加しています。男女別は、女性が 39件と多く見られています。年齢別は、女性は 15～29歳に 33件と多く、男性では 15～39歳に19件と多く見られています。地区別は、熊本が 38件と圧倒的に多く、次いで八代7件、有明5件、御船、宇城に各 4件、菊池 3件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 24件(前月比 1. 2、前年同月比 1. 3)でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性が 13件とやや多く、年齢別では、男性では 30～39歳が8件と多く、女性では 15～70歳以上と幅広く見られています。地域別は、熊本が 22件と圧倒的に多く、次いで、菊池、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は 13件(前月比 2. 2、前年同月比 3. 3)でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に 7件とやや多く見られています。年齢別は、男性では 15～70歳以上と幅広く見られますが、女性では 15～29歳に見られています。地域別は、熊本 4件、八代、宇城に各 3件、有明 2件、御船 1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は 24件(前月比 2. 4、前年同月比 1. 5)でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に 19件と多く見られています。年齢別は、男性は 15～59歳に、女性では 20～24歳に4件と多く見られています。地域別は、熊本 17件、八代、有明、宇城 に各2件、御船 1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件(前月比 ±0、前年同月 -2)でした。

2. 無菌性髄膜炎: 報告数0件(前月比 -3、前年同月 -1)でした。久々に発生なしです。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数13件(前月比 1.6、前年同月比 0.6)でした。やや前月より増加も昨年より少なく推移。
4. クラミジア肺炎: 報告数2件(前月比1.0、前年同月+2)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数16件(前月比 0.9、前年同月比 0.2)でした。減少傾向が続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数8件(前月比 2.7、前年同月比 1.3)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月±0、前年同月-2)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月±0、前年同月±0)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 24件
- 3類感染症: 報告はありませんでした。
- 4類感染症: レジオネラ症: 1件
- 5類感染症(全数把握): 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1件
後天性免疫不全症候群: 3件
梅毒: 1件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1件
風しん: 1件